

小中一貫教育だより

東条学園5年生 田植え 体験



【 1列に並び田植え体験をする児童 】

地域と学校をつなぐ地域学校協働本部の協力で6月12日、JA 営農指導員、岡本営農組合、地域住民の方々にお世話になり、岡本地区で東条学園小中学校5年生児童が田植え体験をしました。手植えでの田植え体験を通して、

地域との交流を深め、田植え作業の工夫や苦勞を知る良い学習の機会となっています。また、機械化された現代農業への理解を深めるとともに、ふるさと東条を愛する気持ちを育むことを目的に毎年開催されています。

田植えに先立つての事前集会では、田を提供してくれた岡本地区の代表から「農業を守る担い手になってほしい」とあいさつがありました。そして、JAの指導員から植え方について説明を受けました。その後、実際に田に入ってみると、子どもたちはぬかるんで足が進まなかったり、バランスを崩したりと悪戦苦闘していました。



【 田植え後、感想を述べる児童代表 】

体験を終えた児童代表は「昔の人は機械もなく、1枚1枚植えるのがたいへんだったのだろうと感じました。家でも田植えがあるので、今日の体験を生かしたい」と述べました。秋には、保護者も参加して、稲刈りをする予定です。

東条学園 第2回学校運営協議会

6月6日、東条学園小中学校で第2回学校運営協議会が開催されました。まず、4・5月の教育活動の報告が学校からあり、6～8月にかけての教育活動についても協議しました。その後、『ふるさとを愛し地域に貢献するひと』とはどんな人をイメージしますか?」をテーマに4グループに分かれて意見交換が行われました。「ふるさとを知り、ふるさとやそこに住む人に興味を持ち続け、より良いふるさとを創るための活動ができる人」「まず自分が地域を愛するそして自分のできることをしながら地域の暮らしを支えてくれる人」等の意見が出されました。これらを実現するために「地域や学校教育はどうすれば良いか?」について、次回以降、議論を継続します。



【 活発な議論をする委員の皆さん 】